

読書メモ 2020年5月号

反町康治著『RESPECT』

(信濃毎日新聞社・2016年) ほか

信州・上田仮説サークル やなぎさわかつひろ 柳沢克央編

2020年5月23日(土), 5月Zoom例会用レポート

◇はじめに—

前回までの「読書メモ」と同様、サークルで発表することを目的とすると、読書がはかどるので、今回もこのメモを作成しました。自身のため、記録を残すことが第一目的です。みなさま、よろしく(適当に)おつきあい下さい。今までのものと同様に説明あり、引用あり、要約あり、感想ありで諸々が混交しておりますのでご注意を。(私物)と書き添えてあるもの以外はすべて屋代高校図書室蔵書。

Zoom例会は2回目。来月はリアルでできるかもしれない。リアルの授業は素晴らしいな。オンライン授業も「面白い」けれど、なかなか「楽しい」まではいかない。顔が見える聴衆を目の前にしてこそ、舞台人の心意気は舞い上がる。私は教壇の舞台人であるということがよ〜くわかりました。早く普段通りに教壇に立ちたいものです。そのためにもいま、出来ることを一生懸命やろうと思う、わりと殊勝(けなげ)なところもある私です。

◆「読書メモ」以前に必要な「予備知識」

反町 康治(そりまち やすはる, 1964 年 3 月 8 日 -)は, 埼玉県浦和市 (現:さいたま市) 出身の元サッカー選手, サッカー指導者(JFA 公認 S 級コーチ)。現役時代のポジションはミッドフィールダー(MF)。元日本代表。現日本サッカー協会技術委員長 兼 J リーグ特任理事(非常勤)。2008 年北京オリンピック時の U-23 サッカー日本代表監督。……

2012 年, 松本山雅 FC の監督に就任。指揮 3 年目の 2014 年に松本を J1 へと導いた。2016 年からは再び J2 所属となるが, 2018 年にチームを J2 優勝に導き[7]自身 4 度目の J1 昇格を果たした。2019 年を以て松本の監督を退任した[8]。

2020 年 3 月 12 日, J リーグ特任理事(非常勤)に選任されたことが発表された[9]。3 月 29 日に日本サッカー協会理事会にて技術委員長の就任が決定した[10]。〔以上, Wikipedia〕

◎本日までに読んだ本

◆反町康治著『RESPECT』(信濃毎日新聞社・2016 年)

○代表監督の経験は貴重だった。日本代表の誇りやプライドの重みが身に染みて分かった。指導者には情報収集とフットワークが大事だとわかったし, 選手を見る観察眼も養われたと思う。一流の選手は一流の人間であり, 性格はプレーにも表れる。選手を判断するときは, グラウンド以外の部分も見なければいけないことも学んだ。全部をクラブには還元できていないが, 常に視線を世界に向けるようになり, 海外代表やクラブの動きも注視するようになった。(22 ペ)

○組織のリーダーには, 一つの目標に向かい, みんなを引っ張る役目がある。ただ, 自分だけが必死に走り, 後ろを振り向いたら誰もついてきていないようでは困る。自分の歩幅を, 選手やクラブの歩幅と合わせながら最短距離でリードする必要がある。うまくいかないからといって, ぶれたり, 信念を曲げることも絶対にやってはいけない。何か起きるたびに指導者がぶれると, 選手たちに迷いが生じる。(67 ペ)

○私の好きな言葉に前フランス代表監督ロジェ・ルメールの「指導者が学ぶことをやめたら教えることをやめなければならない」というものがある。監督になったことに満足したり, 監督になった途端に偉ぶった態度を取る人がいるが, そうした意識は選

手にも伝染し、プレーに表れる。(67 ペ)

○オシムさんからは「当たり前のことだが、真剣に真面目に（選手を）選ばなければいけないという認識を強く持ってほしい」と言われていた。私はその言葉を脳裡に浮かべながら、時間をかけて議論に議論を重ねて（北京五輪代表の）18 人を選んだ。

選択して決断するという作業は、単純に見えて重たいものだ。オシムさんはこうも言っていた。「ある中東の国で代表監督が大会の途中で解任され、引き継いだ別の監督が指揮を執ってチームを優勝させた。周囲は後任を称賛したが、私は違う。称賛されるべきは前任だ。なぜなら、その監督が選手たちを選んだのだから」と。私も同感だ。(103 ペ)

○選択するという作業の中には、選手の能力や可能性を見抜く、見極めるという要素も入ってくる。技術的なこともそうだが、人間性を見極めることも大事だ。(103 ペ)

○進路に迷った時、誰かに相談することも必要だろう。だが、自分自身の人生に責任を持つのは最後には自分しかいない。進もうとしている学校や会社、チームで何ができるのか。明確であればいちばん良いが、例えそうでないにしても、進路に対してのイメージを持ったりビジョンを描いたりできるかどうか、進む道を決める上で極めて大切だと思っている。(143 ペ)

○試合の時にベンチに座って選手を交代させることが監督の仕事だと思っている方も多いかも知れないが、それは 100 ある仕事のうちの一つにすぎない。シーズンが始まる前から監督の仕事は始まっていて、スタッフや選手の編成、キャンプや練習の組み立て、自分たちのチームや相手チームの分析、ゲーム戦術の構築……。本当に多岐にわたる。試合が始まる時には、やるべき仕事の 90 は終わっていると言える。(149 ペ)

○たった 10 秒の話をするために 1 時間以上をかけて用意することも珍しくない。割に合わないと言ってしまうまでも、私はこの積み重ねがそのまま成績にはね返ってくると思っている。そう信じていなければ、この仕事はやってられない。(150 ペ)

○試合を読む力や判断力といった選手個人の能力はデータに残らない。その力を見極めるのが監督の仕事だ。(155 ペ)

○私は長い監督経験の中で、スピードや高さがあって、うまい選手が大成しない例をいくつも見てきた。攻撃的な選手で言えば、守備をしようとしなかったり攻守の切り替えの意識がなかったり。技術や身体的な能力がいくら高くても、チームの一員としてプレーする姿勢や、持っている力を発揮する精神力がなければ、個の力は埋もれてしまう。(165 ペ)

*この本は既に一回読んである。続刊を機に再読。柳沢のコメントは2冊まとめて。

◆反町康治著『RESPECT・2』(信濃毎日新聞社・2020年)

○若手育成に定評があるオランダのアヤックスは、選手のスカウトで「TIPS」(チップス)と呼ばれる四つの観点を大事にしている。Tはテクニック(技術)、Iはインテリジェンス(頭脳)、Pはパーソナリティ(人格)、Sはスピード。スピードは単純に走る速さではなく、シンキング・スピード(判断の速さ)も含める。私(反町氏)もこの見方に賛成だ。(26 ペ)

○シーズン中は寿命が縮まるような生活で、つらいことの方が多いが、エンジョイしないといけないと思っている。選手がピッチで生き生きと躍動し、勝利を収めた時の達成感は何物にも替えられない。サポーターやクラブ関係者の笑顔に接すると、ハッピーな気分になれる。

何でも自分でやらないと気が済まず、人に任せきれない性格だが、それでは駄目だということはわかっている。年をとると頑固になるが、人の話を聞かないようではいけない。経験にあぐらをかいていては駄目だと自分を戒め、初心を忘れずにやっている。(57 ペ)

○選手をよく観察し、信頼し、常にかかわりを持っているというシグナルを日常的に送っておくことは、指導者として非常に大切だと考えている。そうしたコミュニケーションが、一方的ではなく、相互に成立していれば、指導者が選手に厳しく接したとしても、関係性が破綻することはない。(97 ペ)

○指導者としてのこだわりがあるとすれば、右手にロジック（論理）、左手にパッション（情熱）を持ってことに当たる、ということだろうか。この姿勢が失われたら仕事はできないと思っている。（102 ペ）

○ロジックを持つためには勉強しなければいけない。パッションを持つためには覚悟が必要だ。指導者として理想を追い求めるあまり、背伸びしすぎてチームづくりがうまくいかないことはよくある話だ。一つの理想像に固執せず、チームが現在、持っている力を踏まえてどういう戦術を構築するかが大事だ。こだわりを持たないこだわり、という言い方もできる。（104 ペ）

○チャレンジは常にリスクと背中合わせだ。成功すれば大きな成果を得られる一方で、失敗すれば失うものもある。しかし、チャレンジしなければ新しい何かを得ることができないことは確か。であるならば、やはり今年（2019 年）のわれわれは果敢にチャレンジするしかない。（122 ペ）

○RESPECT とは「レスポンスビリティ・責任」、「エンデバー・努力」、「ストラグル・戦う」、「プログレス・向上心」、「エンジョイ・楽しむ」、「コミュニケーション・意思疎通」、「シンキング・考えること」。（おもて見返しより）。

*

*教育全般への普遍性がある。モノの見方考え方と指導法とが指導者の中で統合されていなければならない。案外、此処がいい加減な場合が多いのではないか。そして、学習者本人にとっても、ものの考え方と技量というものは一般に比例することはあきらめられぬ。技量というものは必ず本人の精神と深く結びついているのだから、言葉と行動とが一致しているときに最大限の成果が得られるはずである。とても単純な事実を改めて実感させてくれる素晴らしい本である。

◆ユヴァル・ノア・ハラリ著『21 世紀の人類のための 21 の思考』（河出書房新社・2019 年）

ある講演会に行ったときに偶然、隣席になった男性としばし会話し、「ハラリ氏の著作は面白い」と教えてもらった。ハラリ氏は歴史学者、哲学者。文章は明晰、機知

に富むが、翻訳なので味わいが良く伝わってこないような気がする。面白いが、「これはタネ本があるな～。いろいろな古典を編集して現代に合わせて書いているだけだな～」と感じた。

テーマは幻滅，雇用，自由，平等，コミュニティ，文明，ナショナリズム，宗教，移民，テロ，戦争，謙虚さ，神，世俗主義，無知，正義，ポスト・トゥルース，SF，教育，意味，瞑想。

より良く生きるために「瞑想」は有効だと結ぶ。確かにそうかもしれないけれど、普通の人にはやや違和感があるかも知れない。正しい瞑想をするのは、良い指導者につかなければならない。特に禅の場合、生半可な修行をすると「禅病」という状態に入る場合があり、危険なのだから。何かの本で読んだ。瞑想による修行を掲げる宗教団体がかつて、社会的に許されない事件を起こしたことがあるので、本当に気をつけなければならないだろう。

◆雑感メモ

○立川談志は落語のイノベーター（改革者のうちでも次元を上げる仕事をした人）であった。立川談志の仕事をさまざまな分野に拡張敷衍する意義は高い。

○寄席はなくとも落語はできる。→学校でなくても学べる。

○落語上達論の確立。→21世紀の修行論として学ぶ意義がある。『現代落語論』等を通じてきちんと学んでみたい。

○上納金システムの確立。→経営者感覚は学ぶことができるが、単なる古来の家元制度のコピーにも見える。いずれにしても、食べられるように教育するためには必然的に対価を納める必要が生ずることは明らか。

○噺よりも噺家のキャラクターが前面に出る落語は現代的。→林修氏の話す内容はどこにも際だった特徴がない。林修氏というタレントが語るからこそその価値が生まれる。内容よりもキャラクターの方が重要。池上彰氏も同じ傾向が強くなってきた。

○「問を立てて、無理矢理にでも前進する」という姿勢は現代のビジネスや学び方の上で大きな示唆を持つ。立川談志以上

- 1000 のことをやって、10 に絞って発表するから面白くなる。
- 1000 のことをやって、1000 のことを発表するのは無理。
- 10 のことをやって 10 を発表するとつまらない。
- M 君は 1 の成果を上げるために 80 の意味のある失敗をした。それらの失敗は決して無駄ではなかったのだ。エジソンも似たことを言っていた。
- 自ら学ぶ個人が安定的に自立自律できれば、学校は不要となる。そして、最終的に学校は寺院化する。
- 託児機能は学校でなくても分担できる。
- 精神的な救いを求める人や儀式を求める人だけが学校に足を運ぶ時代が来る。
- 学校とは別に共同体に所属することにより、人は精神的な安定感を満たすことができる。
- 言葉をいい加減に使って、失敗している例あれこれ。
- 「学びの改革支援課」→きちんと学んでいるのなら、別に改革なんてしなくても大丈夫。学ぶことは即、自己革新であるから。
- 「アクティブ・ラーニング」→ラーニングは元々アクティブだから、おかしい。重複表現。
- 「働き方改革」→働き方は個人的なものだから「改革」なんておかしい。個人がこっそり「変える」だけでよい。「働き方」は組織の言葉ではない。「労働規則」なら組織的な意味を持つ言葉になる。
- 「志ある卓越」→志は卓越の必要条件なんだから、重複表現である。「18 歳以上の運転免許保持者」という表現と相似形。
- 「生きる力」を学校で教育する→「生きる力」はもともと家庭や個人に備わったものだから、「現代社会を充実して生きる力」などの表現にしないと意味不明になる。
- 「SDG s」→ここは日本だ。日本語で言え。
- 「資質・能力の向上」→資質は持って生まれたものだから、変えることはできない。向上させることはできない。教育によって引き出すことはできる。能力も同じ。真面目に言葉を使え。

○厚労省「高度プロフェッショナル制度」ってアホか。「高度でないプロフェッショナルなんているわけがない」でしょう。「高度即プロフェッショナル」「プロフェッショナル即高度」。「二流の名人」がないのと同じ。案外「高級粉わさび」って、あったりして。実際「高級インスタントラーメン」や「ハイグレード駅そば」は実在する！摩訶不思議なり。

○「〇〇のあり方」→言葉としてのあり方がぼやけている。ぼやっとした暇人の思考がもたらした言葉だろう。

○3月から怒涛の勢いの2カ月が過ぎ去った。学校には癒し切れない「大きな傷跡」が残されたと同時に、「オンライン授業」を初めとする「未来への希望」の一端も見え始めてきた。これからの展望をあれこれ考えながら毎日を充実させようと奮闘している昨今である。それにしても、新型コロナウイルスについては、政府は①嘘をついている。②頭がオカシイ。③重大なことを隠している。①～③のどれか、またはこれらの複雑な組み合わせなのだろうと思う。情報、判断の根拠、具体的なデータ、いずれにも不足しているので、首相以下閣僚の言うことに全く説得力がない。こんな状況でよく日本が崩壊しないものだと思い、感心している。[以上、2020年5月23日(土) 10:40 自宅にて。Zoomだから、以前と作成方法が異なる。これはこれで面白い展開]

【問題】 左右の写真で注目すべき最も重大な差異はどこだと思いますか。

ヒント1：これらの写真は2018年4月末に青森の萌出浩さんを訪問した時、助手席から撮影した写真です。

ヒント2：この道路は同一の路線です。ただ、撮影した行政区は異なります。具体的に言うと……，問題が途端に簡単になりますので，ここでは控えておきます。

